

令和 4 年度

幼保小連携活動報告

令和 5 年 9 月

足立区教育委員会

子ども施設運営課

目次

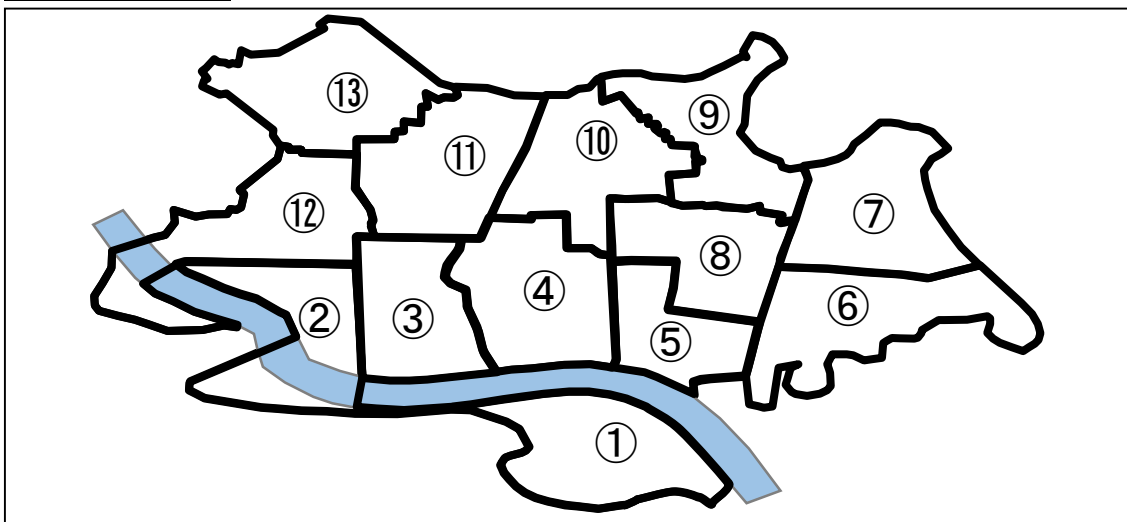
I 各ブロック幼保小連携活動報告

1	第1ブロック	3
2	第2ブロック	7
3	第3ブロック	10
4	第4ブロック	14
5	第5ブロック	17
6	第6ブロック	20
7	第7ブロック	24
8	第8ブロック	27
9	第9ブロック	31
10	第10ブロック	34
11	第11ブロック	37
12	第12ブロック	40
13	第13ブロック	44

II 接続期教育研修

47

ブロック配置図



I 各ブロック幼保小連携活動報告

1 第1ブロック

(1) 第1ブロック連携校・園

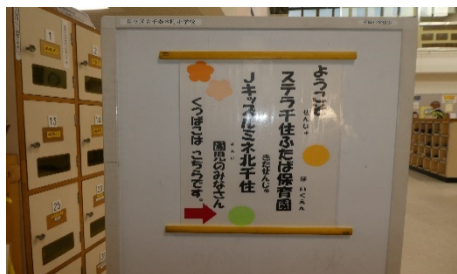
小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
千寿	・足立 ・中条	・緑町 ・ういず千住大橋駅前 ・クリアナーサリー千住大橋 ・あい保育園千住大橋 ・まなびの森保育園千住大橋	
千寿本町		・ステラ千住ふたば	・Jキッズルミネ 北千住
千寿双葉	・千住寿	・元宿 ・北千住もみじの森	
千寿常東	・聖和	・日ノ出町 ・北千住どろんこ ・キッズガーデン足立柳原 ・北千住太陽	
千寿桜		・千住 ・北千住 ・たんぽぽ保育所北千住園 ・帝京科学大学千住桜木	
千寿第八		・千住あずま ・せきや ・ういず千住曙町 ・アスク千住 ・まなびの森保育園関屋	・ぽけっとランド 千住曙町

(2) 第1ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【千寿本町小学校とステラ千住ふたば保育園、Jキッズルミネ北千住保育園の取り組み】

○ 学校探検

校長先生に靴箱を案内してもらい、個別の靴箱を利用することで、子どもたちは小学生の雰囲気味わうことができた。1年生による歌と劇の歓迎では、「かっこよかった」「素敵だった」と感想を言葉で伝えていた。校長先生から校庭のクスノキの年齢を聞かれると、「5歳」「6歳」と身近な年齢を答えるが、「100歳」と聞き驚いていた。図書室は、絵を描いたり工作したりするところ、図書室にはたくさん本があることを知り、興味が広がった。5年生の授業を見て「頑張っている」と感心したり、1年生の教室は6年生の隣と知り安心していた。



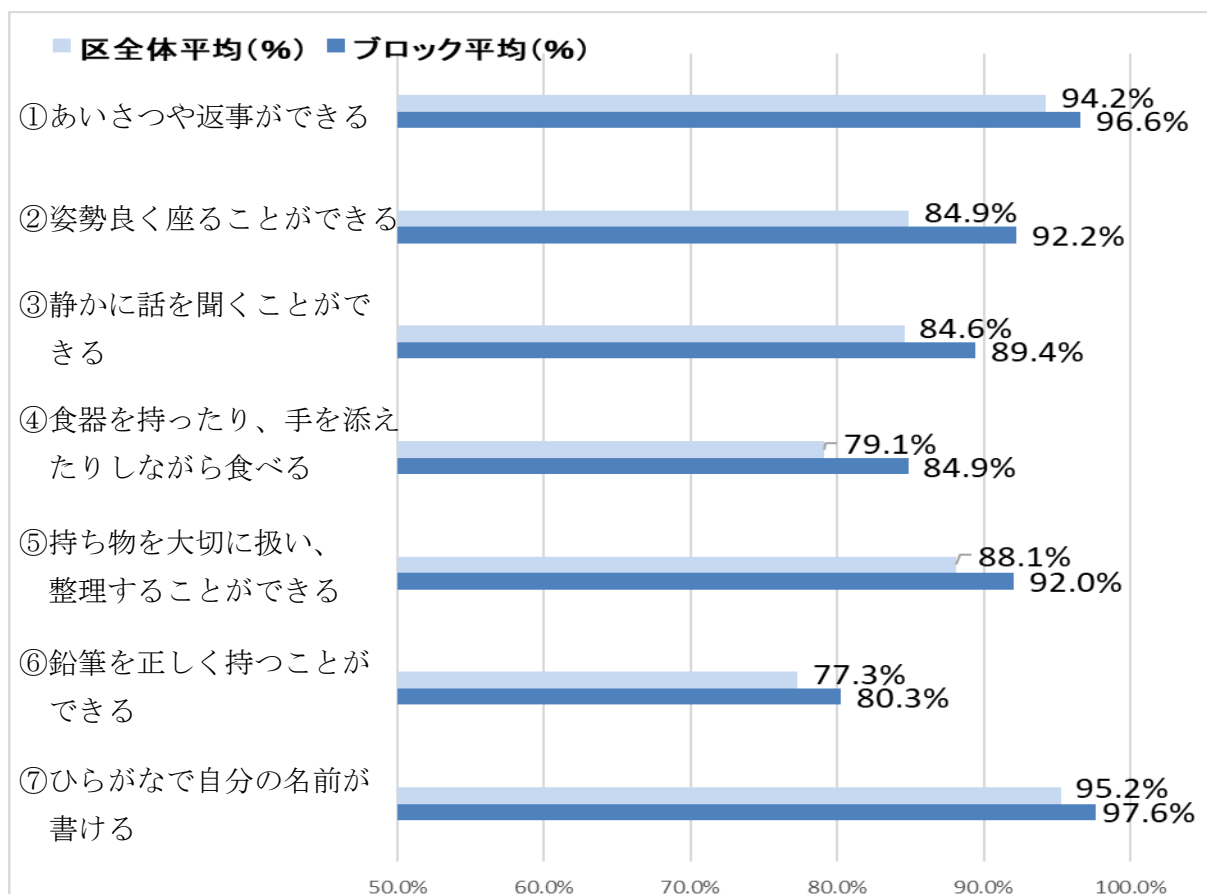
【千寿双葉小学校と千住保育園、元宿こども園、北千住もみじの森保育園の取り組み】

○ 学校探検

1年生の司会で『始まりの会』を体育館で開催した。園児は緊張しながらも期待をもって参加し、その後、各学級に分かれて授業を見たり、図書室で1年生に絵本を読んでもらったりした。その後、教室で、1年生に椅子に座る時の姿勢や鉛筆の持ち方を優しく教えてもらい、憧れの気持ちや、やってみたらできたという思いをもつことができた。また、昔遊びでは、園で経験した遊びがあったことで、自分で遊びを選んだり、繰り返し挑戦したりしながら、もっとやりたいという意欲につながった。



(3) 令和5年度1年生アンケート結果
第1ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

ア 小学校

- (ア) 椅子の座り方については、授業中及び給食の時間は姿勢保持が困難な児童がいる。
- (イ) 食事のマナーでは、椅子を前後に動かす、食器に手を添えない、人差し指を食器の中に入れて皿を持つなどの姿が見られる。家庭によっては、ワンプレートによる配膳があるようで食器に手を添える習慣も薄れつつある。
- (ウ) 入学前にほぼ自分で名前を書けるようにはなっているが、鉛筆を独自の持ち方で持ち、正しく持つことができない児童がいる。

イ 就学前施設

- (ア) 話を聞く時、給食時など姿勢保持が難しい園児がいる。
- (イ) 体幹の弱さ、指先を使った微細運動が苦手な園児が目立つ。
- (ウ) 偏食が目立つ園児がいる。食事に時間がかかってしまい30分以上かかることもある。

第1ブロック

課題に関する子ども達の取り組み方針

ア 小学校

- (ア) 腹筋を鍛える活動を取り入れて体幹を育てることを意識していく。
- (イ) 指導方法や実施後の子どもの変化については、家庭や学校での情報共有をしていく。
- (ウ) 姿勢保持する筋力や指先の巧緻性については、意識的に授業に取り組んでいく。
- (エ) 入学後しばらくは、食事時間（20分）を少し配慮していくことも必要であるため、検討していく。

イ 就学前施設

- (ア) 一本橋・はしご・リズム遊びなど体幹を育てる遊びを取り入れる。
- (イ) 乳幼児期に粗大運動や微細運動が十分にできるように年齢や発達に合わせた環境構成を行う。
- (ウ) 体にあった机や椅子の提供、滑り止めシート活用、背もたれのない椅子などの使用を通して姿勢・集中力を高めていく。
- (エ) 指先を使つての遊び・食具の持ち方の指導・三角鉛筆の使用・書き順指導表の掲示などにより鉛筆を正しく持てるようにしていく。
- (オ) 調理体験・栽培・皮むき体験など食育活動を通して食材や食への意識や興味・関心を高め、食に対する意欲につなげていく。
- (カ) 施設長・栄養士・調理員・保育者が情報交換をし、家庭とも連携を取り食育に取り組んでいく。

ウ 全体

- (ア) 体力や集中力の向上
腹筋や体幹を育て、姿勢保持や集中して話を聞く姿勢の定着を図る。
- (イ) 生活習慣の定着
食具や筆記具の正しい持ち方や姿勢保持については、乳幼児期からの体を使う遊びや多様な体験を通して身に付くようにする。

2 第2ブロック

(1) 第2ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
江北	<ul style="list-style-type: none"> ・足立サレジオ ・江北さくら 	<ul style="list-style-type: none"> ・上沼田 ・江北 ・江北すきっぷ ・にじいろ保育園江北 	
扇		<ul style="list-style-type: none"> ・AIAI NURSERY 高野 ・大空と大地のなーさりい 扇大橋園 ・さつき 	
宮城	<ul style="list-style-type: none"> ・東京白百合 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城 ・三星 ・足立しらゆり 	

(2) 第2ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【江北小学校とにじいろ保育園江北、江北すきっぷ保育園、上沼田保育園の取り組み】

○ 学校探検

2月に3園合同で江北小学校の学校探検を実施した。

1年生の担任より校内を歩く時の約束を聞き、2グループに分かれて出発した。少し緊張気味に歩き出すが、小声で「おしゃべりしないんだよ」「バタバタ歩いたらダメなんだよね」と声を掛け合いながら約束を守ろうとする姿があった。1年生の教室、音楽室、体育館、図書室、保健室、給食室、校庭を見学した。図書室では「わあ、本がいっぱい」と歓声をあげる園児もいた。校庭では5年生が大縄跳びに挑戦する姿に「すごい」と声を上げ、その迫力に圧倒されていた。

園児からは「学校に来るのが楽しみ」「楽しかった」などの感想があり、就学への期待がさらに高まった。



【宮城小学校と宮城保育園の取り組み】

○ 学校探検・1年生との交流

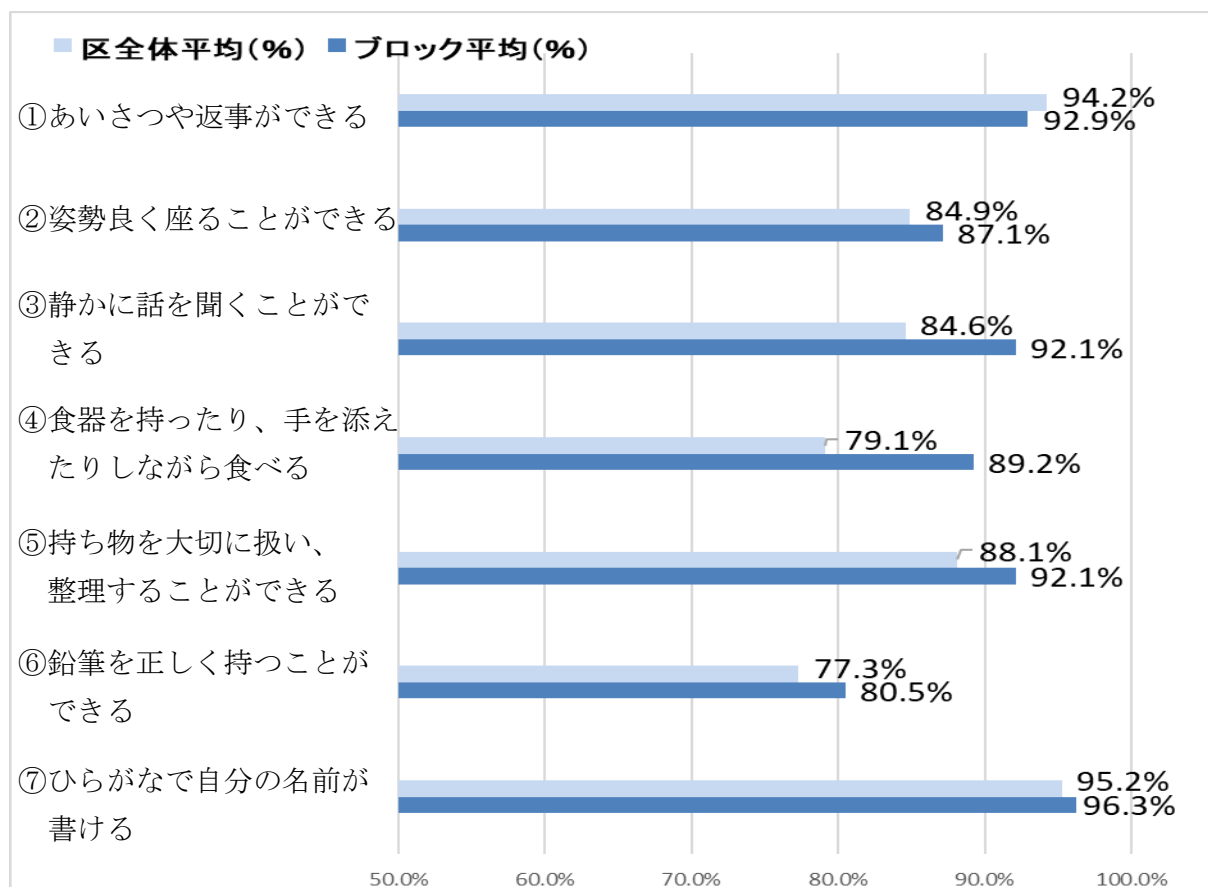
学校探検では、教室や保健室、校長室、屋上、プールなどを見学した。空教室で席に座らせてもらおうと、自分から背筋をピンとする姿も見られた。

1年生の昔遊びの授業に参加させてもらい、興味津々で見ている。最後に、1年生から「4月に会えるのを待ってるよ」と言葉をかけてもらい、緊張の中にも笑顔が見られ、就学を楽しみにしている様子うかがえた。



(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第2ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

ア 鉛筆の正しい持ち方ができない。癖がついてしまうと、正しい持ち方に直すのが難しい。

イ 姿勢の保持ができない。一時的にはできるが、良い姿勢を維持することができない。

ウ ここ数年、母子分離ができていない家庭が多く、登校時泣く児童も見られる。コロナ禍による生活様式（リモートワークとなり、子どもに手をかける時間が増えた）の変化による影響が考えられる。

課題に関する子ども達の取り組み方針

ア 「あいさつや返事」については、大人が率先垂範で示していくことで、子どもたちの姿に反映されるようにしていく。

イ 生活や遊び、体育の授業の中で、体のバランスをとる動きや移動する動き、操作する動き等、基本的な動きの経験ができるよう取り組んでいく。

ウ 児童・園児の交流、職員交流、公開授業（保育）など、コロナ禍でできなかったことを実施し、児童・園児の交流の充実や教員・保育者の連携の強化を図っていく。

エ 各家庭が抱えている事情を踏まえながらも、就学前施設と小学校と連携を取りながら、保護者へ必要な発信をし、家庭とともに子どもの成長を支えていけるよう、家庭の教育力向上をめざす。

第3ブロック

3 第3ブロック

(1) 第3ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
西新井	・西新井	・興野 ・西新井教会 ・いづみ	
西新井 第一		・西新井聖華 ・愛恵保育園にしあらい	・チェリッシュ 西新井
興本 (興本扇学園)	・興南	・興本 ・キッズガーデン足立興野 ・アスク扇	
本木	・足立愛育 ・第一若草	・本木 ・本木東	
寺地	・足立双葉	・キッズガーデン足立扇 ・扇こころ	

(2) 第3ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【西新井第一小学校と愛恵保育園にしあらい、チェリッシュ西新井、西新井聖華保育園の取り組み】

○ 授業体験

10月の学校公開期間中に、1年生の教室で園児が授業体験をした。

1年生は自分の席に園児を案内し、自分たちが制作した『西新井第一小学校70周年行事に向けた学校紹介』のビデオを一緒に見た。園児は興味をもってよく見ていた。

また園児は、「鉛筆で線をなぞる」「自分の名前を書く」「ランドセルを背負う」「折り紙でチューリップを折る」などの体験をした。1年生が隣で優しく教えてくれたり褒めてくれたりしていたので、安心して取り組んでいた。園児からは「小学校楽しかった」「また行きたい」との声が聞かれ、入学への期待が高まった。



ビデオを真剣に観る園児と1年生

○ 学校探検と給食体験

学校を探検したり、1年生の授業を参観したりした。

廊下に掲示してある「学校の紹介」に興味をもち、立ち止まってしばらく見ていた。その後、教室に入って授業の様子や給食準備（当番・配膳）の様子を見た。

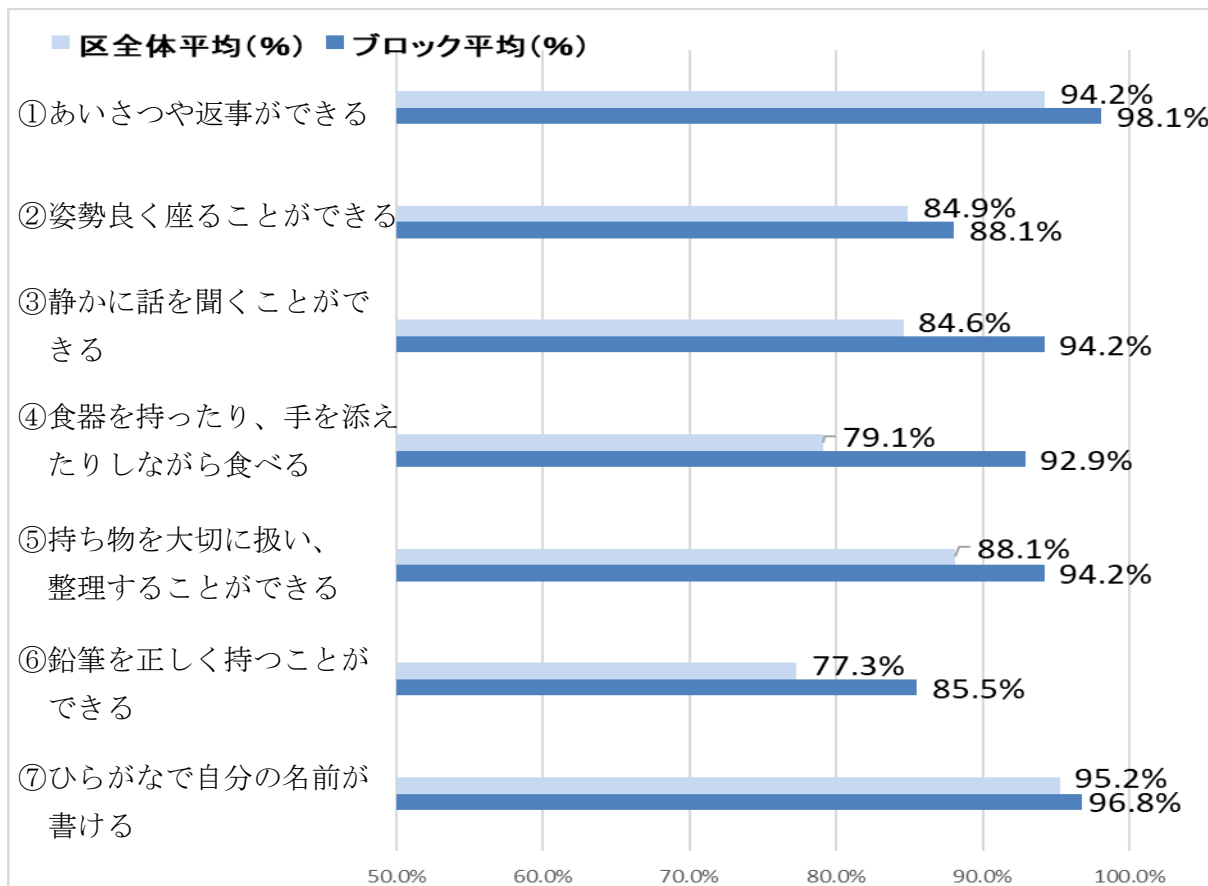


給食体験では、自分の好きなものから食べ始め「おいしい」と言いながらよく食べていた。園児のことが気になり食べている様子を見にきた1年生は、「結構いっぱい食べるんだね」と言い、園児のことを気にか、入学してくることを楽しみにしている様子がうかがえた。



(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第3ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題
ア 「あいさつや返事ができる」では、できているという評価が高いが、一方であいさつを元 気よくできない児童もいる。
イ 鉛筆の持ち方、書き順、食器や箸の持ち方などに課題がある児童が多い。
ウ 姿勢が崩れやすい、姿勢よく座ることが難しい児童がいる。
課題に関する子ども達の取り組み方針
ア 担任が見本となるように、気持ちのよい挨拶をし、児童を迎えるように心がける。また、 交流活動時には、お互いにしっかりと挨拶することができるように事前指導を行う。
イ 鉛筆の持ち方、箸の持ち方など、幼児の意欲を尊重し指導していくことを基本とし、保育 者は発達の特徴を捉えた遊びの環境を整え、正しい持ち方につながるような援助を行って いく。
ウ 夏休み期間を利用し、小学校の教員が出前授業を行い、就学への期待を高めながら鉛筆の 持ち方等の指導を行う。

エ 就学前施設では、保護者会等で食具の持ち方、鉛筆の持ち方について話をし、家庭と共に指導ができるようにする。

オ 就学前施設では、生活や遊びを通じた体づくりを行う。小学校では、姿勢良く座ることの大切さを伝え、児童が興味、関心をもって話を聞くことができるように、教員同士が連携をとって工夫していく。

第4ブロック

4 第4ブロック

(1) 第4ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
関原	・橘 ・専念寺	・足立ひまわり ・たんぽぽ保育所西新井南園	
梅島	・梅島	・うめだ「子供の家」 ・バンビ保育園梅島園 ・エーワン梅島 ・ミアヘルサ保育園ひびき 西新井	・ちぐさ保育園
梅島第一	・こだま	・島根 ・にじいろ保育園梅島	
梅島第二	・八千代	・梅田 ・親隣館	
島根		・栗原つくし ・島根いちい ・キッズガーデン足立島根	
亀田		・中部ひまわり ・ミアヘルサ保育園ひびき 梅島	
栗原	・満願寺	・西新井きらきら ・ちゃいれっく西新井駅前	

(2) 第4ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【亀田小学校とミアヘルサ保育園ひびき梅島の取り組み】

○ 図書活動

校庭に運動会で使う和太鼓が置いてあることに気づき、「たいこだ」「おおきたいこだ」と嬉しそうに保育者に伝える姿があった。副校長先生に、靴の置き場所を教えてもらおうと壁に沿って靴を並べる。図書室に入ると、初めは椅子の高さに驚き戸惑っていたが、何冊か本を選ぶうち「この本が見たかった」「図鑑ありすぎ」など、感じたことを言葉で伝え合っていた。亀田小学校にきょうだいがいる園児が、「またここの本借りられるよ」と友達に教え、「またここに来られるね」と楽しみにしていた。自分で本を選ぶ経験や、保育園にもある絵本を読んでもらったことで、就学への期待がもてた。



【関原小学校とたんぽぽ保育所西新井南園の取り組み】

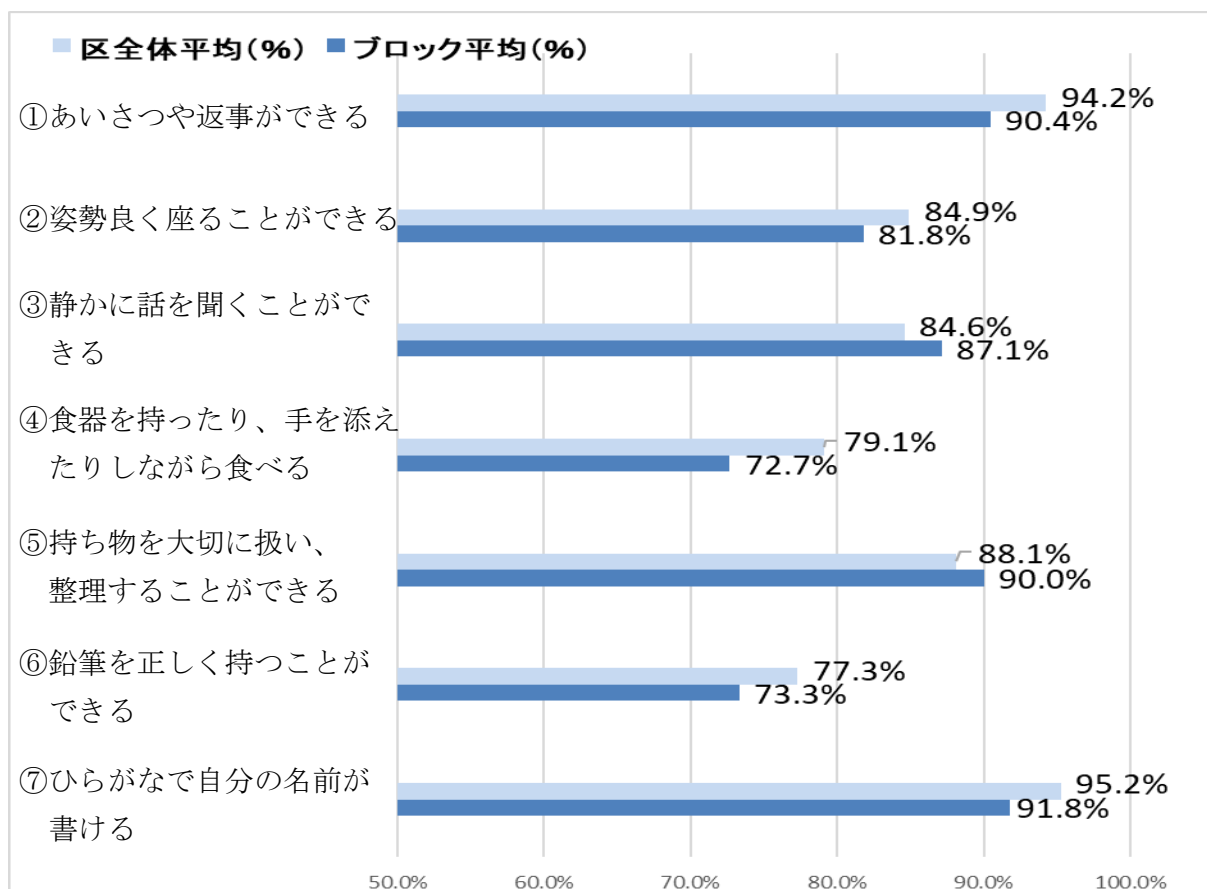
○ 校庭探検

「プールはどこにあるか」「学校は何階建てか」など、校長先生が人形を動かしながら説明することで、親しみをもって話を聞くことができた。実際にプール探しをすると、シートがかかっている場所を「プールかも」と保育園のプールの大きさから推測して答える。そこが砂場と分るとびっくりしていた。また、登り棒や鉄棒に挑戦したり、トラックでリレーをしたり、全身を使って校庭の広さを感じていた。最後に校長先生からプールは屋上にあることを聞くと、子どもたちの興味が一層高まり、就学に対する期待につながった。



(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第4ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題
ア 身の回りの生活習慣について、身につけている児童とそうでない児童がおり、差がある。
イ コロナ禍で、園での食事でも保育者が園児の近くで声をかけながら一緒に食べるものがなくなったことがさまざまなことに影響しているのではないかと。
ウ 姿勢よく話を聞いたり、静かに話を聞いたりする態度は、学校生活において大切なことであるため、引き続き指導することが必要である。
エ 手先をうまく使うことが難しい子どもが増えているように思う。
課題に関する子ども達の取り組み方針
ア 大人が模範的な生活行動（挨拶など）を示すことで、子どもたちに学ばせていく。
イ 食事の姿勢やマナーについては、家庭と連携しながら、引き続き粘り強く指導を行っていく。
ウ 就学前施設と小学校の交流を通して、互いの子どもの実態をつかみ、今後の保育や指導に活かす。
エ 多様な遊びや経験を通して、体や手先の使い方を学べる環境づくりを行う。

5 第5ブロック

(1) 第5ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所 認可外保育所
足立	・春光	・高和 ・子ひばり ・五反野	・Aloha International Preschool
弥生	・城北	・中央本町 ・足立梅島雲母 ・足立さくらんぼ ・やよい	・ぱる★キッズ 足立
弘道	・弘道 ・五反野	・トレジャーキッズあやせ ・西綾瀬りりおっこ	
弘道第一	・のぞみ	・聖華こうどう ・キッズガーデン足立青井	

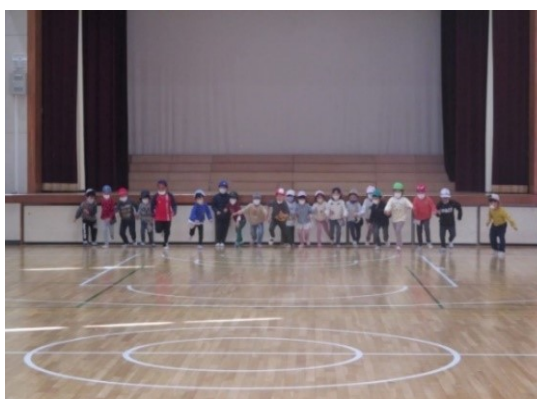
(2) 第5ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【弥生小学校と中央本町保育園の取り組み】

○ 学校探検

副校長先生の案内で体育館に行くと、「走ってみる？」の言葉で一斉に走り出した。保育園の園庭ほどある広さの体育館を思いきり走り、緊張していた表情が笑顔に変わった。

屋上のプールを見て、「大きいね」「深そう」と興味を示す。「プールはどれくらい深いですか？」と質問をすると、「これくらい」と副校長先生が胸の高さに手を当てた。自分の背と比べて「潜っちゃう」と驚く。図書室では、たくさんの本が並ぶ様子に目を輝かせ、好きな本を選んだり、本棚の間を歩いて楽しんだりする。最後に1年生の算数と図工の授業を見学した。休み時間になると、1年生が園児へ「待ってるよ」と声を掛ける姿に、就学後の様子を保育者は見ることができた。学校体験は、友達と一緒に見て、聞いて、感じることができ、就学への期待がさらに高まる大事な体験となった。



「走ってみる?」「走りたい!」



「どのくらい深いのかな」

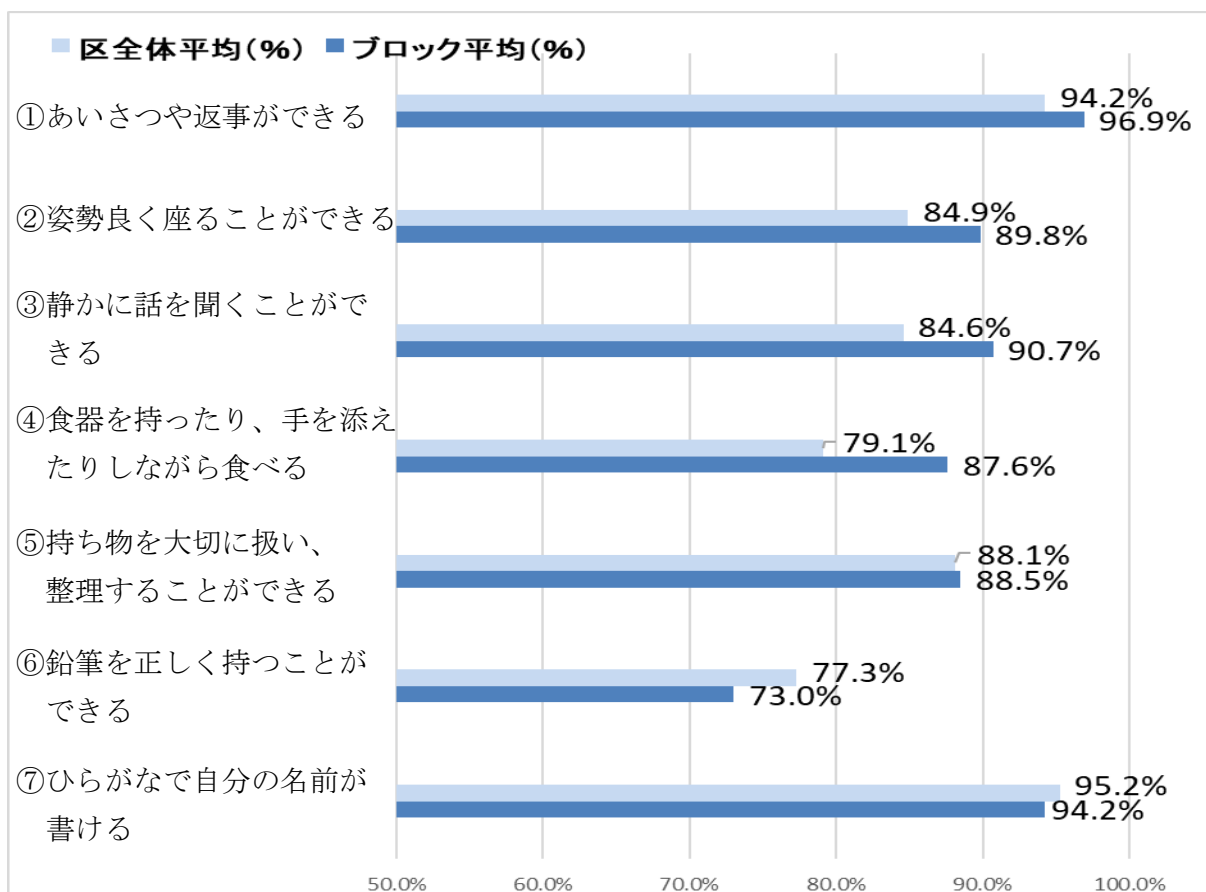


「好きな本が見つかった」



「勉強おもしろそう」

(3) 令和5年度1年生アンケート結果
第5ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

<p>1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題</p> <p>昨年度と比較して区平均値より大きく上回った項目は、②姿勢保持+5P、④食事マナー+8Pであった。一方で⑥鉛筆の持ち方については、昨年度+3Pから今年度-4Pと大きく下がり明確な課題となっている。他の項目についても同様であるが、ブロックの小学校⇄園、園⇄園との現状や課題に対する手立ての情報共有、さらには保護者を巻き込んだアフターコロナにおける家庭との連携、協力の充実を図っていくことが必要である。</p>
<p>課題に関する子ども達の取り組み方針</p> <p>ア 各園での活動内容を情報共有して楽しみながら書く取り組みを充実させ、小学校の入学時には自分の持ち物が分かる程度に文字を読めるようにしていきたい。</p> <p>イ 昨年度実施できた小学校と園の交流活動を継続・充実させるとともに、幼稚園と保育園との交流活動も模索し、少人数から多人数への活動を小学校入学前に経験させる機会を設けたい。</p> <p>ウ コロナ禍の影響で体力やコミュニケーション能力の低下が憂慮されている。子どもの状況を細やかに家庭へ情報発信し課題に対して協働して取り組めるよう保護者の意識向上を図っていく。</p>

6 第6ブロック

(1) 第6ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
綾瀬	・足立白うめ	・あやせ ・東部若葉 ・チェリッシュ綾瀬 ・キッズガーデン足立綾瀬	・コンビプラザ 綾瀬
東綾瀬		・東綾瀬 ・足立若葉 ・東綾瀬きらきら ・あやせババール園 ・恵・YOU	
東加平	・チェリー	・北綾瀬聖華 ・にじいろ保育園綾瀬	
東湊江		・東 ・チェリー ・聖母のさゆり ・ソラストあだち東和	・どんぐり保育園 東和
北三谷	・親愛 ・美松学園	・東和 ・ビーフェア東和親水	
大谷田	・聖フランシスコ	・隅田学園※	
長門		・隅田学園※	

※ 保育園の隅田学園は2校と連携している。

(2) 第6ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【小学校と幼稚園、保育園、認証保育所の取り組み】

○ 幼保小合同研修会

参加者：小学校10名、幼稚園8名、保育園・認証保育所24名
 幼児教育と小学校教育の違いや小学校との接続について、和洋女子大学の田島助教にお越しいただき、講座を開いた。

グループ討議では、2歳児の事例から子どもの気付きを読み取ったり、小学校教育と幼児教育について、学習内容や活動などの視点で考えたりした。



幼児にとっては「遊び」そのものが目的。面白いことは誰かに伝えたくなり、日常の中にこそ面白いことがある。

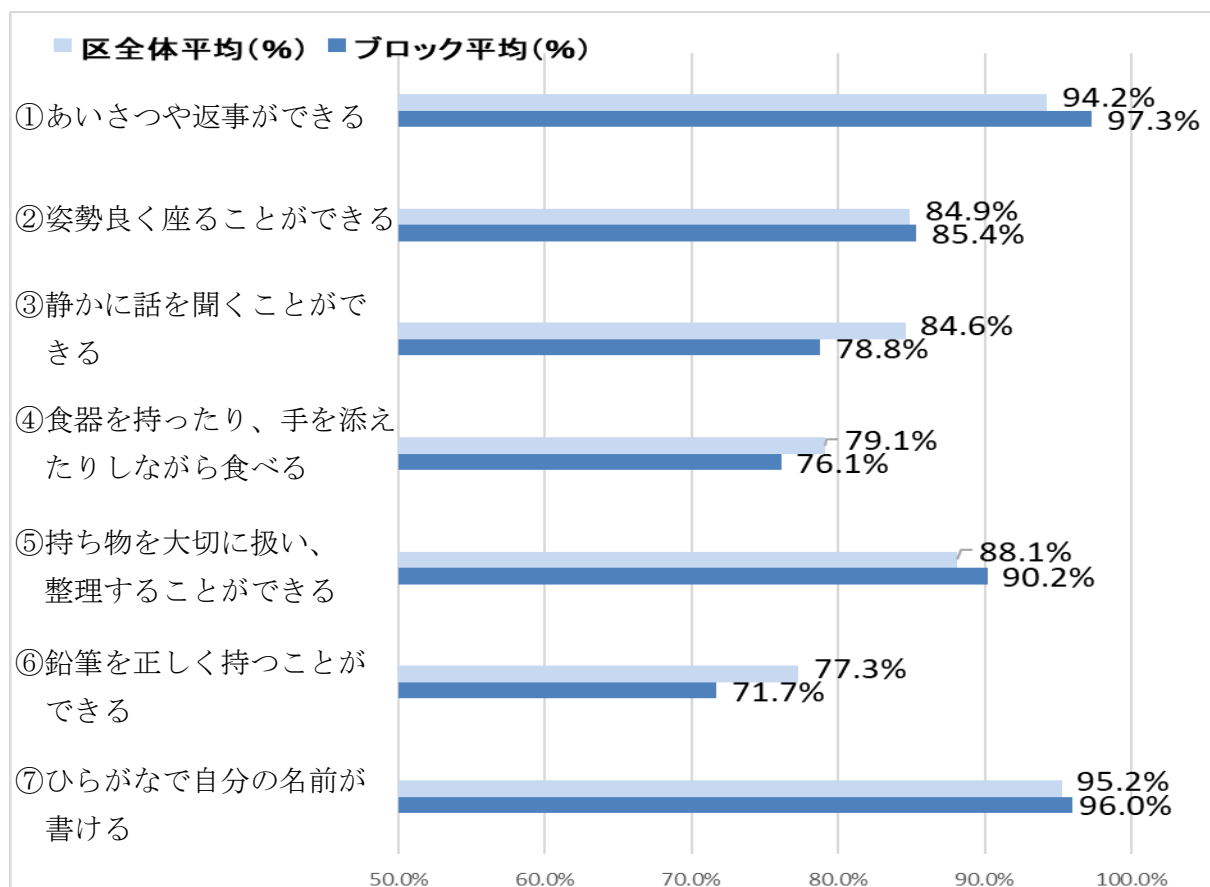
グループ討議では、実態を交えながら小学校教育と幼児教育の違いを出し合い、子ども理解を深め合った。



合同研修会の感想より

- ・ 学習内容や一日の構成など、幼稚園・保育園と小学校の相違点や共通点をより理解することができた。
- ・ 相違点があるからこそ幼保小連携を密に行い、子どもたちが安心して就学できるようにしていかななくてはと思った。
- ・ 遊びの中にたくさんの学びがあり、それらが小学校以降の基礎になることを学んだ。
- ・ グループワークで、遊びの中の学びを工夫、試す、気づく、意欲などの共通言語で語り合えたことが良かった。

(3) 令和5年度1年生アンケート結果
第6ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- ア ①の項目。挨拶はよくできる子どもが多い。
- イ ③の項目が下がっている。学びの基礎となる大切な力なので身に付けて欲しい態度である。就学前でも「聞く」ことに課題があり、人数、場所、内容に左右されやすい。学校では、席の間隔が近く、友達が近くにいることで聞くことに集中できない傾向がある。話を聞く姿勢も時間が経つと崩れ気味になる。
- ウ ⑥鉛筆の持ち方が高学年になっても安定しない子どもがいる。
- エ 就学前から丁寧に取り組んでいるが、就学した後に戻ることや、高学年になり持ち方が悪くなることもある。→教師の働きかけにより、子どもの姿はかわる。
- オ ⑦の項目について⇒平仮名で自分の名前を書けない、鏡文字になる子どもがいる。

課題に関する子ども達の取り組み方針

各連携校により、取り組み方針を決定する

ア 鉛筆の持ち方は、就学前の食具の持ち方から丁寧に取る。また、活動の中で持ち方を伝える。

イ ③の項目について

(ア) 興味をもって聞きたくなるよう話し方を工夫する。

(イ) 対話型でやりとりをして聞くことができるように援助する。

(ウ) 発達に見通しをもった援助をする。

(エ) 小学一年生時のしゃべりたい気持ちは、アウトプットさせてあげることが大事である。発達の時期がくれば落ちつくため、見通しをもって関わる教師・教諭・保育者は日々のことを丁寧に繰り返し取り組んでいく。

第7ブロック

7 第7ブロック

(1) 第7ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
中川		<ul style="list-style-type: none"> ・大谷田第一 ・足立北綾瀬雲母 ・AIAI NURSERY 北綾瀬 	<ul style="list-style-type: none"> ・チェリッシュ 北綾瀬
中川北	<ul style="list-style-type: none"> ・黒川 	<ul style="list-style-type: none"> ・六木 	
辰沼		<ul style="list-style-type: none"> ・辰沼 ・きたあやせこころ ・未来っ子保育園北加平町園 ・チェリッシュナーサリー スクールやなか 	
中川東	<ul style="list-style-type: none"> ・東京いずみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおやた ・ナーサリースクール いずみ大谷田 	
六木	<ul style="list-style-type: none"> ・六木 	<ul style="list-style-type: none"> ・神明町 	

(2) 第7ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【中川北小学校と六木保育園の取り組み】

○ 学校公開

1年生の算数、2年生の体育、4年生の読み聞かせの授業を体験した。保育者は、1年生アンケートからの課題に着目しながら見学し、保育園から小学校への滑らかな移行を踏まえた保育内容や援助の仕方へつなげた。



1年生の教室では、「ボード（黒板）が大きい」「ひらがなやカタカナがいっぱいある」と気づいたことを伝えてくる。「鉛筆で字を書いているね」と言うと、「ほんとうだ」と言って、机に向かう姿に注目する。

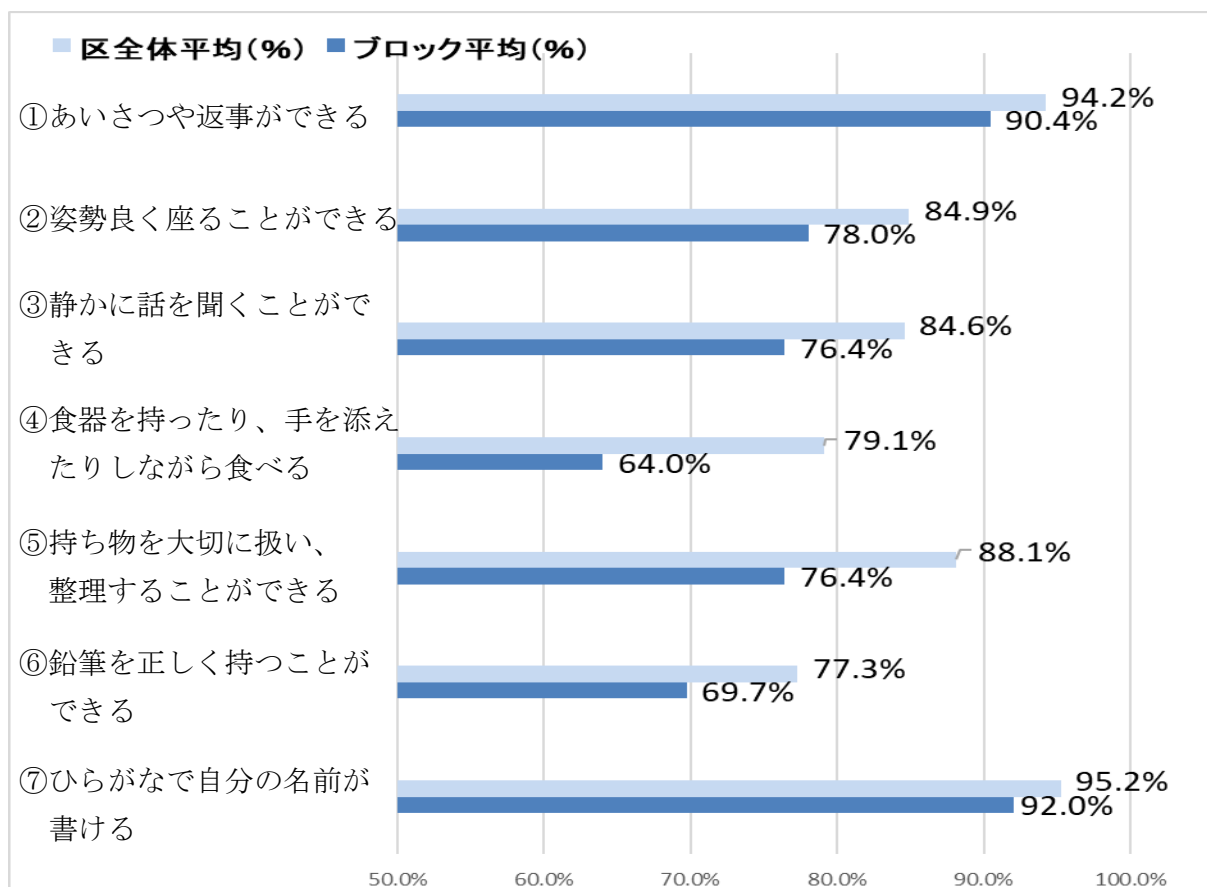
2年生の体育で平均台や肋木を使う授業を見学した。初めて見る器具だったので、使い方を真剣な表情で見ている。園に戻ると「登るもの（肋木）はちょっと怖そうだった」「一本橋（平均台）はやってみたい」「すごく高いところに電気があった」「バスケのゴールもあったよ」と、感じたことを教えてくれた。



図書ボランティアの方による絵本の読み聞かせに、4年生と一緒に参加。少し長い話だったが、繰り返しのあるストーリーが馴染みやすく、よく見ていた。読み聞かせの雰囲気心地よく感じていた。

(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第7ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題
今回、すべての項目で区の平均値より低い結果となっていたが、その中でも特に、食具の持ち方、食事のマナー、鉛筆を正しく持つことについては、区の平均値と大きな乖離があった。また、姿勢良く座り、静かに話しを聞くことについても、課題が見られた。
課題に関する子ども達の取り組み方針
ア 丁寧な見取りと個別の対応を実践していく。(箸の持ち方の見直し、意識付けを行う。鉛筆の持ち方は個々に正しい持ち方を知らせ習慣となるようにしていく。)
イ 粗大運動と微細運動などを習慣的に行い、運動能力の向上と、体幹を鍛えていく。
ウ 遊びの中で手指を使う遊びを多く取り入れ、無理なく箸や鉛筆の持ち方に移行していく。
エ 生活の中で、人の話を聞く時に必要な態度や姿勢を知らせ、身に付くようにしていく。
オ 自分たちで考えたり質問に答えたりする経験から、話を聞いたり、自分が発言する時の態度を身に付けていく。

8 第8ブロック

(1) 第8ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
栗島	・栗島		
加平	・あおい	<ul style="list-style-type: none"> ・たんぽぽ保育所六町園 ・たんぽぽ保育所第二六町園 ・六町駅前 ・野のはな 	
東栗原		<ul style="list-style-type: none"> ・東栗原 ・明日葉保育園保塚園 ・クリアナーサリー 足立さくら園 	
平野	・足立つくし	・平野	
青井		<ul style="list-style-type: none"> ・明日葉保育園青井園 ・AIAI NURSERY 綾瀬六丁目 ・青井 	

(2) 第8ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【平野小学校と足立つくし幼稚園の取り組み】

○ 音楽会リハーサル見学

2、4、6年の音楽会のリハーサルを見学した。演奏する様子を見て大変感心したようで、園に戻るとおもちゃを楽器のように使って遊んでいた。見学中は小学校の教員の指導の仕方に興味を示し、幼稚園の教員の指導との相違点を見付けては、言葉で伝え合っていた。



【平野小学校と平野保育園の取り組み】

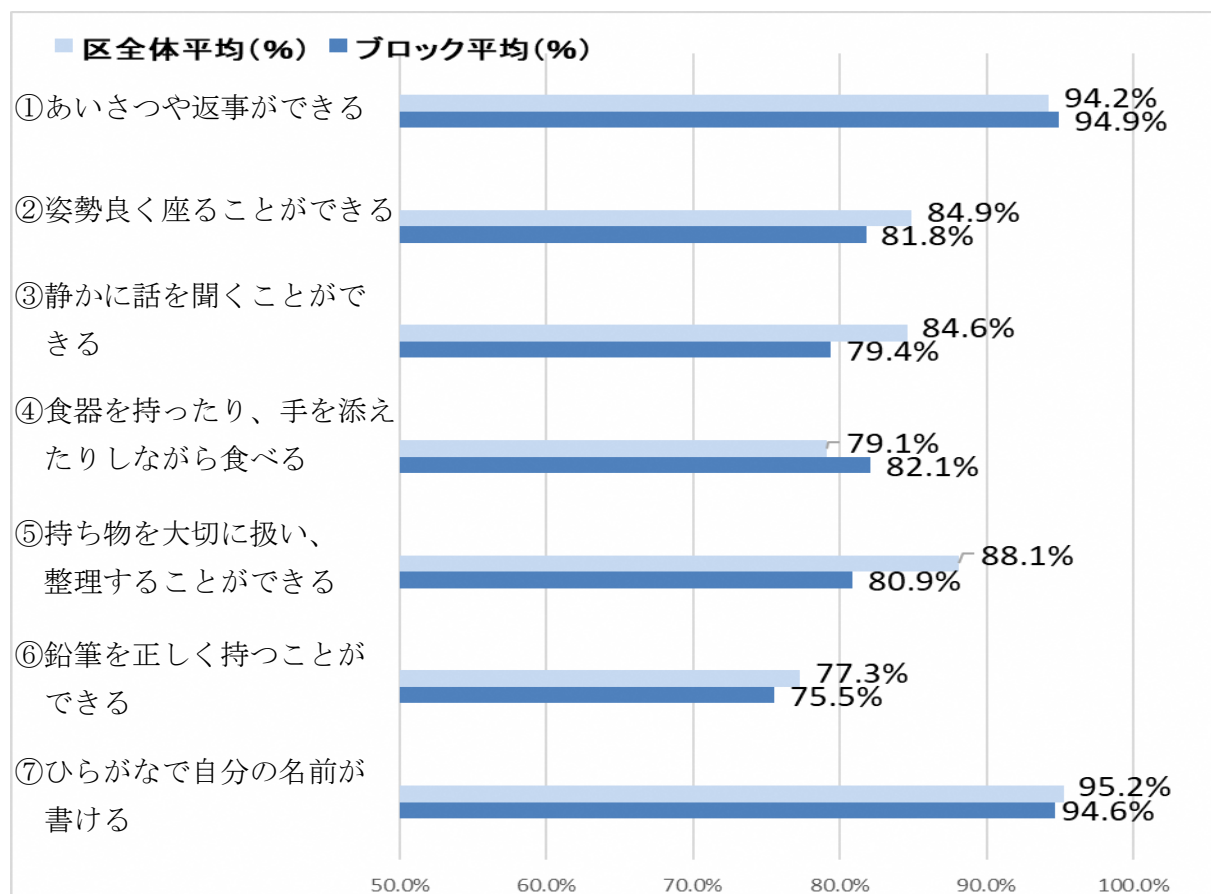
○ 昔遊び

昔遊びの交流のことを伝えると、子どもたちは小学校に行く日を楽しみにしていた。1年生が計画し、体育館に「お手玉」や「こままわし」、「おりがみ」「羽根つき」など様々な昔遊びが用意され、1年生と一緒に楽しんだ。初めは緊張していたが、1年生が一人一人に声をかけてくれたことで、次第に緊張がほぐれ遊びを楽しめるようになった。

「こままわし」では、1年生から「まわすの上手だね」「すごいね」と褒められたり、遊び方を優しく教えてもらったりしたことで、就学に対して安心感をもつことができたようだ。

保育園に戻ると、「学校って、楽しそうだね」「また、学校にいつかみたい」と話す子どもの姿が見られ、就学への期待がさらに高まったようだ。

(3) 令和5年度1年生アンケート結果
第8ブロック集計結果



4 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- ア クラスの3～4割の児童が鉛筆を自己流で持ち、正しく持つことができない。
- イ 箸の持ち方、食器に手を添える等、正しい食具の扱いについて自分で意識できない姿が見られる。
- ウ 困った時にどうしたらよいかの手段（助けを求める、状況を理解し説明する、解決しようと考え行動するなど）が身に付いていない姿が見られる。
- エ 正しい姿勢で座れない、姿勢の保持ができない児童がいる。
- オ 学校の生活に慣れていないことが要因で、児童の困り感があった（給食時のお盆での配膳、トイレでの排便の始末など）。
- カ 保育園で少人数だった児童にとって、集団で活動する学校にはギャップがあった。

課題に関する子ども達の取り組み方針

ア 園児の体験

- (ア) 小学校の給食を体験する。
- (イ) 園児が小学校を訪問し、小学校の生活や活動を体験する。一年生と交流する。
- (ウ) 園児を運動会などの行事に誘い、小学校を知る機会にする。小学校の一年間の行事予定を園児に渡して紹介する。
- (エ) 近隣の園同士で、園児の交流を図る。名前を知る。一緒に遊んで互いを身近に感じる。

イ 職員の実践

- (ア) 園児・児童が自ら活動や学習に向かう意欲をもつために、保育者や教職員が環境を整え、園児が興味をもてるように活動の提示の仕方を工夫していく。
- (イ) 園の職員が小学校の実態や課題を見て、保育に活かしていく。
- (ウ) 小学校の教職員が保育観察をして園での指導を知る。小学校での教育に活かしていく。
- (エ) 園と小学校の職員同士の交流を図る。園と小学校の実態や課題を共有し、それぞれの保育や教育に反映させていく。
- (オ) 園の保育観察を通して学び合い、園同士の職員の交流を図る。

ウ 保護者支援

就学前施設の保護者会に小学校の教職員が出向き、小学校の生活や学習について説明する。

9 第9ブロック

(1) 第9ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
花畑		・六町あづま	
花畑第一		・東花畑	
花畑西	・杉の子		
桜花	・花畑八千代	・花畑桑袋 ・レイモンド花畑	
花保	・石鍋	・南保木間 ・愛隣 ・六町 ・東保木間	

(2) 第9ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【花畑第一小学校と東花畑保育園の取り組み】

○ 学校探検・体験給食

学校探検では図書室、1年生の授業を見学する。しっかり座って手をあげる1年生の姿や話を聞く態度を見て、小学校に一段と憧れや期待をもち、保育園でも椅子に座る時の姿勢を意識する子が少しずつ増えてきた。

体験給食では、5年生が給食についてのクイズや園児の好きな絵本の読み聞かせ、水道の使い方や手の洗い方を教えてくれた。困った時は優しいお兄さん、お姉さんが助けてくれることを知り、不安に思っていた子どもも安心感をもったようだ。事前に献立を知らせたことで、給食が苦手な子どもも当日を楽しみに待つことができた。

保育園に戻り感想を聞くと、「本がいっぱいあった」「1年生が勉強していた」「給食の牛乳はコップじゃなくて牛乳パックだった」など、次々と声上がる。学校探検の経験から、小学校への期待の大きさが伝わってきた。



校長先生による大型紙芝居の読み語り。
よく見ていました。



1年生の教室を見学

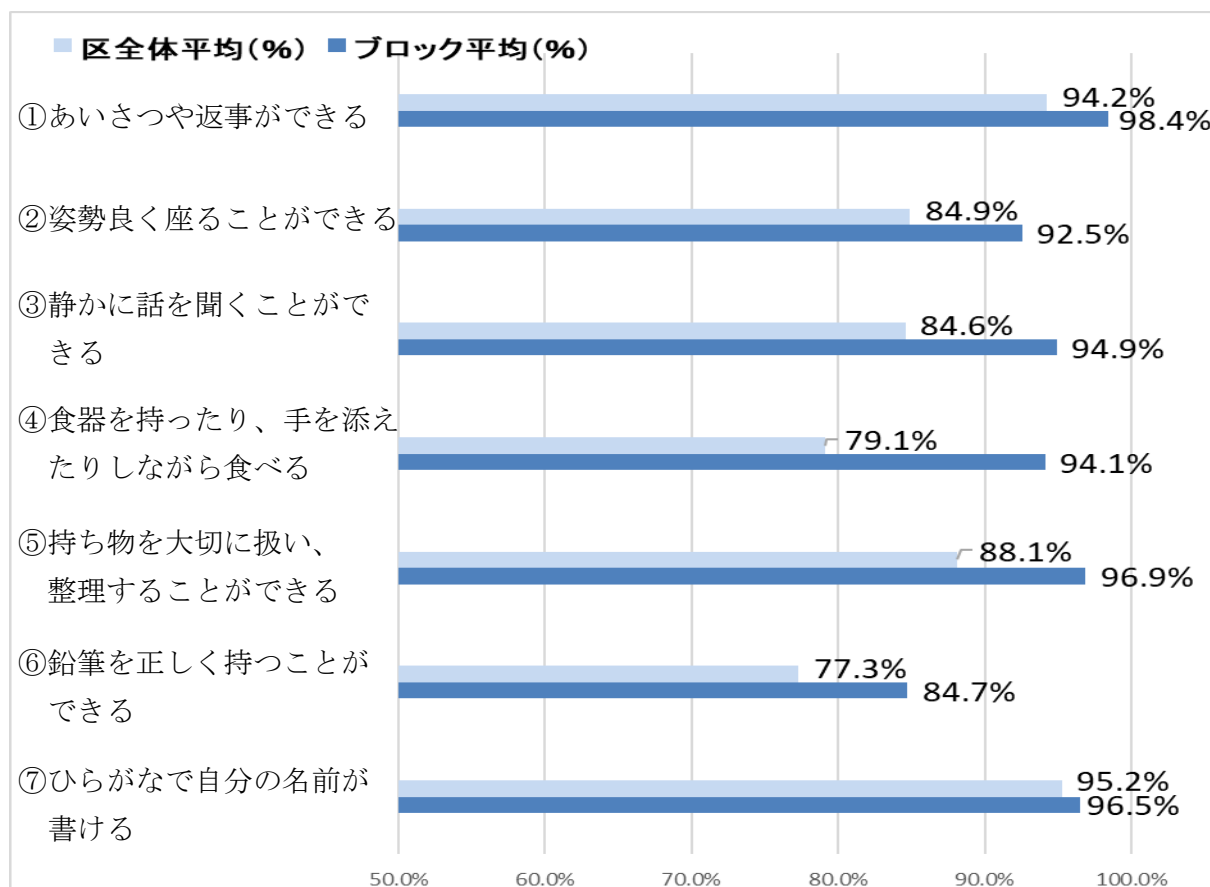


5年生が水道の使い方や手の洗い方を
丁寧に教えています。



ランチルームで給食。配膳は5年生
がしてくれました。

(3) 令和5年度1年生アンケート結果
第9ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題
ア 自分からの発信はあるが、人の話を聞いたり相手からの質問に答えたりする力が弱い。
イ マスクを着用した生活が長く続いたことへの影響からか、正しく発音することができない子どもが多い。
ウ 外国にルーツのある子どもが増え、コミュニケーションが難しいこともある。
エ 気持ちの折り合いをつけることが難しい子どもが多い。経験の積み重ねが大切であると感じる。
課題に関する子ども達の取り組み方針
ア 幼稚園・保育園などで行っている話を聞くルール「良い姿勢で目を見て聞く」を継続して伝え、小学校で「相づちをうって聞く」ことへ繋げていく。
イ 自信をもって安心して話すことができる環境づくりを行っていく。
ウ 「○○です。」と語尾までしっかりと自分の話を伝える練習をする。
エ 小学校ではペア学習を取り入れながら、友達の話に耳を傾ける活動を増やしている。就学前施設ではみんなで話し合いながら作り上げていく活動により、友達とのやり取りを強化している。

第10ブロック

10 第10ブロック

(1) 第10ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
中島根		・中島根	
渚江	・竹塚	・竹の塚北	
渚江第一	・小倉	・保木間 ・北保木間 ・まなびの森保育園竹ノ塚	
西保木間		・西保木間 ・水神橋	
保木間		・竹の塚	
竹の塚	・ふちえ	・渚江	・保育園ミルキー ウェイ竹の塚

(2) 第10ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【浜江第一小学校と小倉幼稚園、まなびの森保育園竹ノ塚、保木間保育園、北保木間保育園の取り組み】

○ 言語活動

1年生が作った乗り物図鑑を各園に届けてくれた。園児は友達と一緒に見たり、一人で読んだりする。読み終わると「ありがとうって言いたい」「小学生に聞いてみたいことがある」と話し、お礼の手紙を書くことになった。わからない文字があると自分から「どう書くの?」と保育者に聞いたり、絵を描いたりしながら、小学生に伝えたい思いを表現していた。1年生の活動が、園児の言語活動を豊かにし学校への期待につながった。



【浜江第一小学校と北保木間保育園の取り組み】

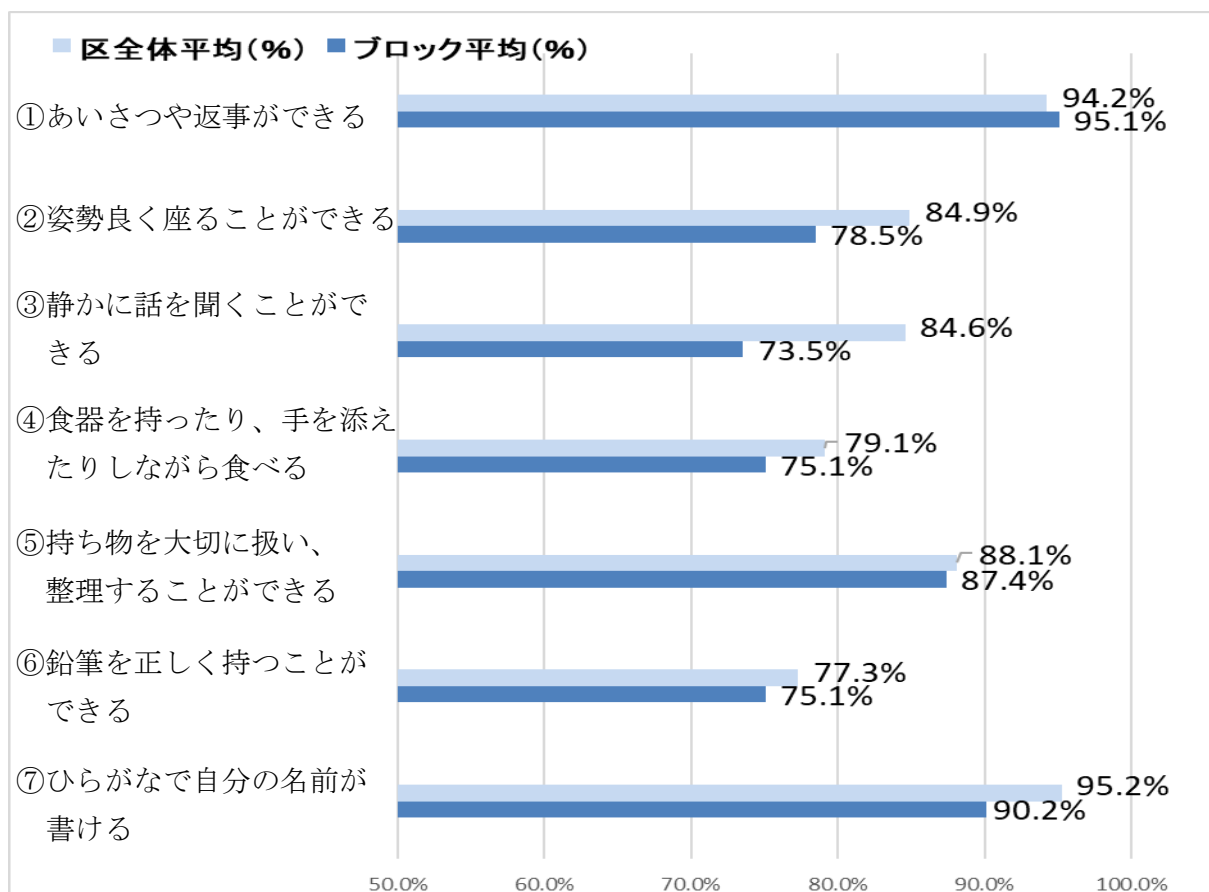
○ 学校探検

8月に学校探検を行った。感染症対策に考慮し子ども同士の交流は行わなかったが、園児は副校長先生の案内で、校舎内を興味をもって見学していた。大きな階段や長い廊下に驚き、教室に貼られていた食育ポスターを見て、「保育園と同じだね」と気付いたことを伝える姿があった。広い校庭では、全速力で走ったり、セミの抜け殻探しを楽しんだりした。小学校に親しみをもち、就学への期待が高まった。



(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第10ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題
<p>ア 姿勢良く座る、静かに話を聞くということが苦手な姿がある。 ⇒体幹が弱いのは、生活の中で体を動かす機会が少ないことが原因の一つと考えられる。新年度は落ち着かず、話を聞く雰囲気作りが難しい。興味の有無に個人差が大きい。</p> <p>イ 「食器に手を添える」「鉛筆を正しく持つ」ということが身に付いていない姿がある。 ⇒小さい時に無理に鉛筆を持つ必要はない。正しく持つということの意味を考えていく。外国にルーツがある子への指導が難しい。</p>
課題に関する子ども達の取り組み方針
<p>ア 遊びの中で体幹を鍛えていく。</p> <p>イ 話し始めるときに「話をします」と言ってから話し始めることで「今は聞くとき」ということを意識できるようにする。話す内容は「一指示一動作」を意識する。</p> <p>ウ 食事のマナーについては、就学前施設にて一人一人丁寧に見取っていく。 指先を使う遊びを取り入れていき、箸や鉛筆の正しい持ち方につなげていく。</p> <p>エ 就学前施設や学校だけでなく、家庭への発信も必要と考えられる。取り組みを伝えることで興味をもってもらい、一緒に取り組んでいくようにする。</p>

11 第11ブロック

(1) 第11ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
西新井 第二		<ul style="list-style-type: none"> ・西新井 ・iー保育園 ・清水 ・アスク西新井 	
西伊興	・佐藤	・ういず西新井	
栗原北	・はなぞの	<ul style="list-style-type: none"> ・くりはら愛育 ・伊興大境 	<ul style="list-style-type: none"> ・たんぼぼ保育所 ・竹の塚園
伊興	・福寿院	・伊興	
東伊興	・本行寺第二伊興	<ul style="list-style-type: none"> ・伊興すみれ ・こころたけのつか 	

(2) 第11ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【伊興小学校と福寿院幼稚園の取り組み】

○ 展覧会見学・学校探検

展覧会では、小学生が丁寧に作った作品や、見る側がわくわくするような工夫に、園児は「すごい、どうやって作ったのかな」「自分も作ってみたい」と目を輝かせていた。

学校探検では、1年生の授業の様子をよく見て、気付いたことを友達と伝えあっていた。校庭では開放的な雰囲気を楽しみ、小学校への憧れ、就学への期待につながった。



【伊興小学校と伊興保育園の取り組み】

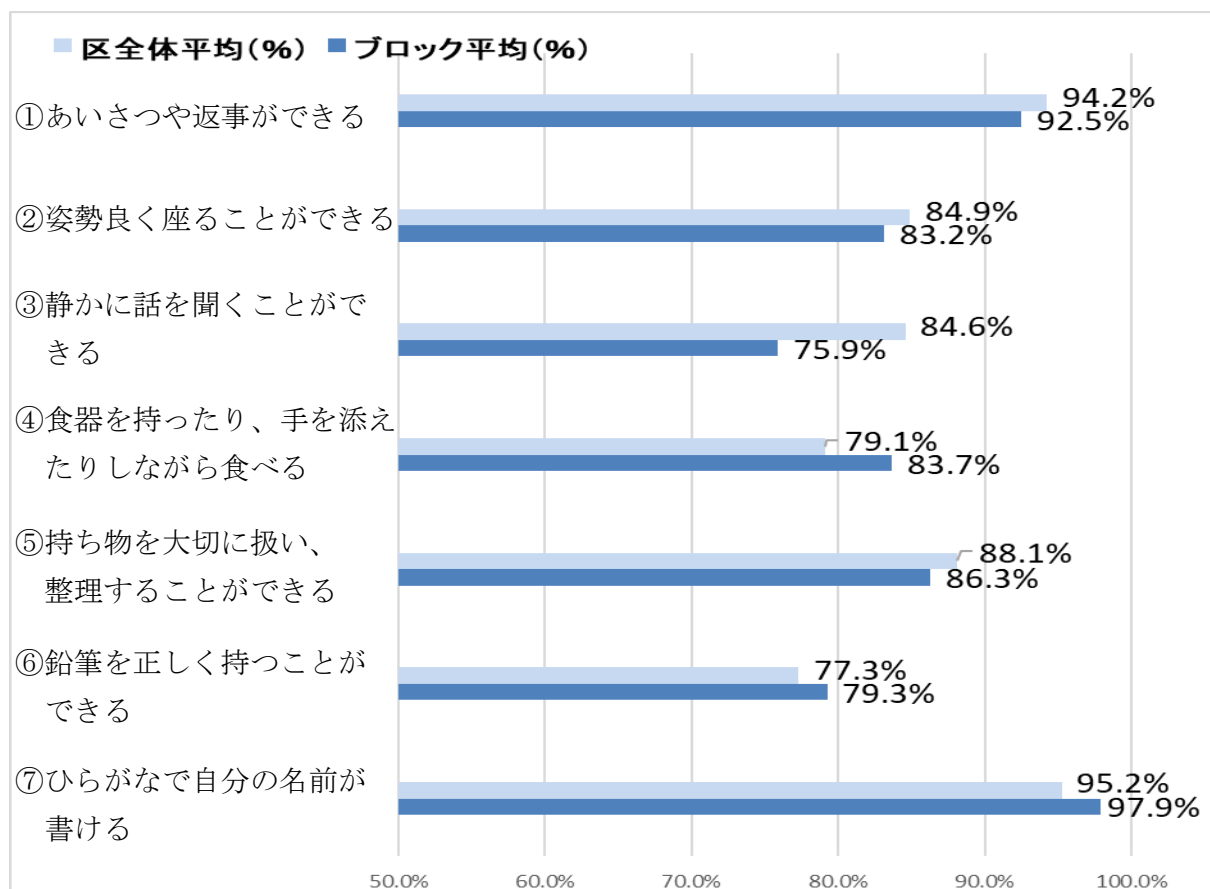
○ 授業体験

1年生は、生活科の授業の中で昔遊びやランドセル体験、学校クイズなどのコーナーを設定し、5歳児1名と1年生2名が1組となり活動した。1年生は、5歳児が楽しく参加できるよう分かりやすく伝える工夫をしていた。その中には、相手を思いやる気持ちが育まれており、互いに貴重な体験となった。



(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第11ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

ア 食事作法や鉛筆の持ち方、自分の名前を書くことについて、ブロックとしての大きな成果を上げているため、今後も継続していく。課題の一つとして、「静かに話を聞く」点が挙げられる。

イ 子どもが主体的に学習に取り組むことは現代において必須なものとなっているが、教師の話や友達の意見を聞かなければいけない場面も必ずある。学校だけでなく社会生活の中でも話を聞かなければならない必要性は絶対にあるため、話を聞く姿勢や態度を育成していきたい。

課題に関する子ども達の取り組み方針

保育園や幼稚園においても話を聞かなければいけない場面は必ずあるが、小学校ではその聞く時間が比較すると長い。小学校の授業では、教師が話す時間を減らす改善を図っているところであるが、話し合いの中でも友達の意見をしっかりと聞かなければならない。まずは「話の聞き方」「なぜ話を聞かなければいけないか」という基本を徹底したい。また、話を聞く能力には個人差があるため、子どもが集中して聞けるように指導者が常に工夫しながら指導し、効果的な方法を共有していく。

12 第12ブロック

(1) 第12ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
鹿浜第一		<ul style="list-style-type: none"> ・ 足立このみ ・ SAKURA 保育園谷在家 ・ 谷在家 	
北鹿浜		<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿浜 ・ 太陽 	
鹿浜西	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿浜愛育 		
鹿浜 五色桜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 江北白百合 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三上沼田 	
皿沼		<ul style="list-style-type: none"> ・ 加賀 	
新田 (新田学園)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 新田わかば ・ 新田 ・ ココロット ・ 保育園ヴィラ・ココロット ・ 新田さくら ・ 新田おひさま 	

(2) 第12ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【鹿浜五色桜小学校と第三上沼田保育園の取り組み】

○ 1年生との交流（学習発表会参観・学校探検）

園児は昇降口で上履きに履き替え、校長先生のお話を聞いた。校長先生から、靴のかかをとを揃えて下駄箱に入れていたことを褒められ、照れている表情も見られたが、靴を揃えることの大切さの話は真剣な表情で聞いていた。

1年生は、学校（教室、校長室、図書室、保健室など）のことを自分たちで調べ、「どんなふうに説明すれば園児にはわかるかな」と、園児を思い浮かべながら準備を進め、当日を迎えた。

説明後、1年生と園児は手をつなぎ、学校内を一緒に探検した。

園児は「プールが大きかった」「図書室に本がいっぱいあった」「理科室もあった」など感想を言い、就学への期待がさらに高まった。



1年生の発表を一番前で聞く園児たち

☆「図書室は本を読んだり調べたりできます。畳の部屋もあります。たくさん本を読んでください。」
 ☆「保健室はケガをした時や具合の悪い時に行ってください。保健室にはピンクのソファもあります。」



【新田小学校と新田保育園、新田さくら保育園、保育園ヴィラ・ココロット、新田おひさま保育園、ココロット保育園、新田わかば保育園の取り組み】

○ 学校見学

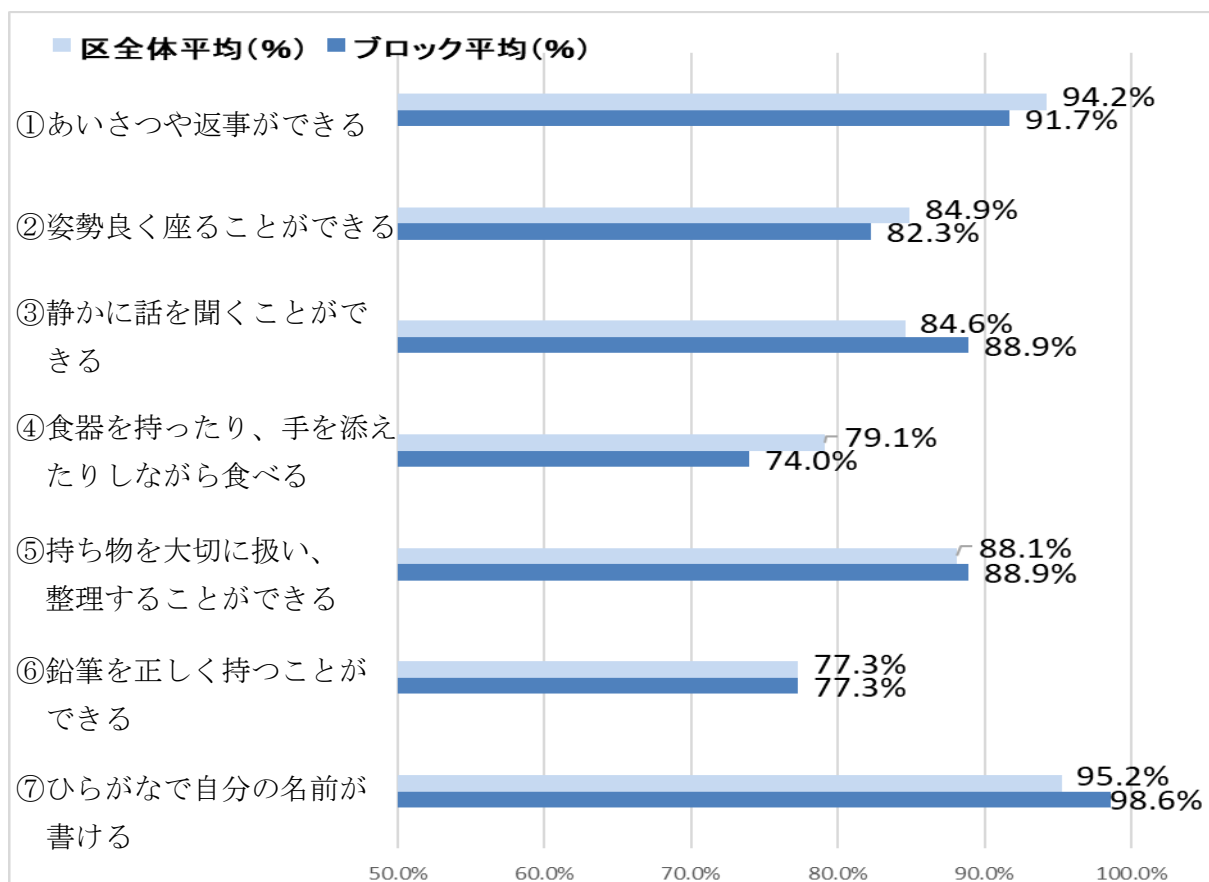
6園で新田小学校を見学した。各園に分かれて1年生の授業や体育館で大縄跳びをする様子、図書室を見学した。園児にとっては授業の雰囲気を感じてみる機会となった。

帰り道では「楽しかった」「もう学校に行きたくなった」と期待を膨らませる声が聞かれた。



(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第12ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題

- ア あいさつについて元気よくできている。「あいさつすると気持ちがいいね」等、やることの意味を考えさせていく。
- イ 姿勢や話を聞くこと、食事のマナーについては段階的に取り組んでいる。就学に向けてどこまで達成させるかを、幼保小が連携して共通理解が図れるとよい。
- ウ 「自分の名前が書ける」の数値が高く、絵本や紙芝居への関心、数字や文字を書いてみたいという気持ちにつながっている。しかし、気持ちが先行して「鉛筆を正しく持つ」ことがおろそかになってしまうことが、課題と考える。
- エ 怪我が多くなっている。コロナ禍の影響で体の動かし方・運動あそび体験が不足しているように感じる。体幹が弱いことがバランスの悪さ、姿勢にも影響している。

課題に関する子ども達の取り組み方針

- ア 「やってみたい」「できる」「おもしろい」の気持ちを大切に学習を展開していく。
- イ 運動発達の36の動きを遊びの中にしっかりと取り入れていくことで、姿勢が保てる体づくりを促進していく。姿勢が良くなる取り組みをすることが、あいさつ、話す・聞く、食事のマナー等の改善にも大きく関わっていると考ええる。
- ウ できている子をどんどん褒める。
- エ 「お話をします」→手を膝の上に等、幼保小で共通した取り組みを実践していく。
- オ 成長発達を、家庭と共有していく。
- カ 計画的に交流活動を実施する。園児が、小学校の授業や給食などを体験することによって、小学校の様子を肌で感じ入学への期待や意欲を高めていく。

13 第13ブロック

(1) 第13ブロック連携校・園

小学校	幼稚園	こども園・保育園	認証保育所
舎人	・足立みどり	・聖 ・アスクとねり ・アスク舎人駅前	・てのひら こども園
舎人第一	・とねり伊藤	・いりや第二	
足立入谷		・いりや第一	
古千谷	・足立つばめ ・舎人		

(2) 第13ブロック 令和4年度 連携活動の主な取り組み事例

【舎人小学校と聖保育園、アスクとねり保育園、アスク舎人駅前保育園、てのひらこども園の取り組み】

○ 野菜栽培収穫体験、体験給食、入学体験

園児は栽培収穫体験を、7月から12月に感染状況を考慮しながら複数回行った。9月から11月の体験給食では、小学校での活動に対する関心や期待を高めることができた。その後の12、1、2月の入学体験では、園児は「畑に来た学校だね」「給食食べたね」と話す姿もあり、緊張することなく参加していた。学校側は、就学前の園児の様子を観察することができた。



【舎人第一小学校ととねり伊藤幼稚園、いりや第二保育園の取り組み】

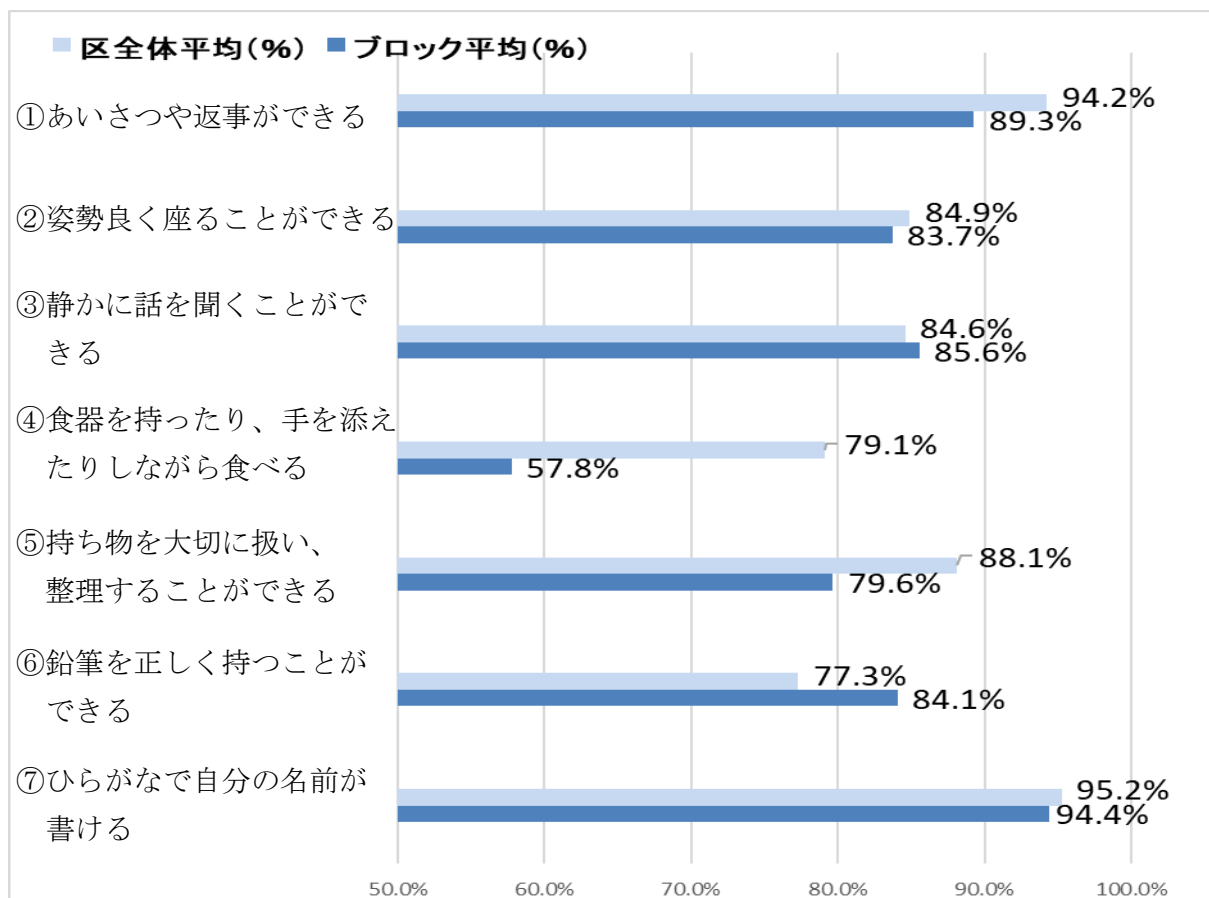
○ 幼稚園、保育園の公開保育

10月に幼稚園、12月に保育園の様子を小学校教諭、幼稚園教諭、保育者が見て協議をすることにより、違いや共通点を感じることができた。公開保育では、今年の課題である「集中して静かに話を聞くことができる」に対して、それぞれの園では、子どもたちが聞きやすい声の大きさ、速さを心掛けていた。また、必要に応じて個別に説明するなど、子どもの思いを聞き応答的に関わりながら理解につなげていた。



(3) 令和5年度1年生アンケート結果

第13ブロック集計結果



(4) 課題および取り組み

1年生アンケートの結果を受け、子どもの姿から見えてきた課題
<p>ア 各校で割合が高くでている課題にばらつきがある。</p> <p>今回、課題として『持ち物を大切に扱い、整理すること』『座る姿勢』が共通し、身に付いていない児童の割合が高かった。</p> <p>イ 持ち物については、自分のものと認識できず、落とし物を見ても気づかない。整理整頓できない児童も多く、持ち物を管理できないことから落とし物が多い。</p> <p>ウ 座る姿勢については、机に伏せる姿勢や椅子の上に足を乗せる姿勢が見られている。</p>
課題に関する子ども達の取り組み方針
<p>課題：『持ち物を大切に扱い、整理する』『正しい姿勢で座る』</p> <p>今年度の取り組みは、昨年度のテーマ『集中して静かに話をきくことができる』にも通ずる内容でもあり幼保小の交流にも活かしていく。</p> <p>自分の持ち物を所定の場所にしまう、正しい姿勢が意識できるように「座って話を聞く時の姿勢」「話し手の方に体を向けてきく」など、場面ごとに正しい姿勢を示していく。体幹の弱さが姿勢保持の低さにつながっているため、運動を多く取り入れるようしていく。</p>

Ⅱ 接続期教育研修

1 目的

就学前教育・保育施設と小学校の連携や、子どもたちの円滑な接続を図るために必要な知見を含め、園・校において必要な指導・支援の力を高める。

2 第1回研修の内容（オンデマンド配信）

(1) 講義1「子どもの発達や学びの連続性から幼保小接続を考える」

ア 講師

日本体育大学児童スポーツ教育学部 教授 齊藤 多江子氏

イ 内容

- ① 幼児教育と小学校以上の教育を貫く柱（資質・能力）と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について
- ② 「育ち、学びを支える力」と「学び・生活の力」との関係について
- ③ あだち幼保小接続期カリキュラム「10+4の姿」を指導（援助）する際に考慮すること及び評価の観点の捉え方について

(2) 講義2「小学校入学期におけるスタートカリキュラム（週案簿）」について

ア 講師

前足立区教育委員会 教育指導部教育指導課 指導主事 中村 健太郎

イ 内容

- ① 幼児教育から学校教育へ移行する際に予想されるギャップについて
- ② めざす児童の姿と課題解決のための指導のポイントについて
- ③ あだち幼保小接続期カリキュラム及びスタートカリキュラム（週案簿）の活用について

(3) 受講者評価

【小学校関係者全体の結果】

評価	研修内容をよく理解できた	指導や連携活動に活用できるものであった
5	41.9%	35.1%
4	54.1%	59.5%
3	4.1%	5.4%
2	0.0%	0.0%
1	0.0%	0.0%

【幼児教育関係者全体の結果】

評価	研修内容をよく理解できた	指導や連携活動に活用できるものであった
5	74.3%	77.1%
4	22.8%	20.0%
3	2.3%	1.8%
2	0.6%	1.2%
1	0.0%	0.0%

3 第2回研修の内容（オンデマンド配信）

(1) 講義「幼保小の架け橋プログラムの目的とその展開」

ア 講師

国学院大学名誉教授／大阪総合保育大学特任教授 神長 美津子氏

イ 内容

(ア) 幼保小の架け橋プログラムの背景

- ① 子どもたち一人一人が、未来の創り手となっていくために「生きる力」の理念を具体化する必要がある。
- ② 学校教育では、個別最適な学びと協働的な学びを重視しなければならない。
- ③ 幼児教育では円滑な接続、質の評価を通じP D C Aサイクルの構築等により質の高い教育を提供しなければならない。

(イ) 幼保小の架け橋プログラムの概要

- ① 幼保小連携の現状と課題及び幼保小架け橋プログラムのねらいについて
- ② モデル地域における開発、実践、検証について

(ウ) 架け橋期のカリキュラム作成の実際

- ① 「遊びや学びのプロセス」から「共通の視点」をもって架け橋期の指導を考える。(5歳児の活動の場合、1年生の生活科の場合)
- ② 遊びや学びのプロセスを支える指導上の留意点について
- ③ 架け橋期の「主体的・対話的で深い学び」の実現を支える教師・保育者の役割について

(2) 受講者評価

【小学校関係者全体の結果】

評価	研修内容をよく理解できた	指導や連携活動に活用できるものであった
5	41.9%	35.1%
4	54.1%	59.5%
3	4.1%	5.4%
2	0.0%	0.0%
1	0.0%	0.0%

【幼児教育関係者全体の結果】

評価	研修内容をよく理解できた	指導や連携活動に活用できるものであった
5	63.8%	64.3%
4	28.6%	28.1%
3	7.7%	7.7%
2	0.0%	0.0%
1	0.0%	0.0%



幼保小連携活動報告

令和5年9月発行

発行 足立区教育委員会

編集 足立区教育委員会 子ども家庭部 子ども施設運営課

東京都足立区中央本町1-17-1

電話03-3880-5431